

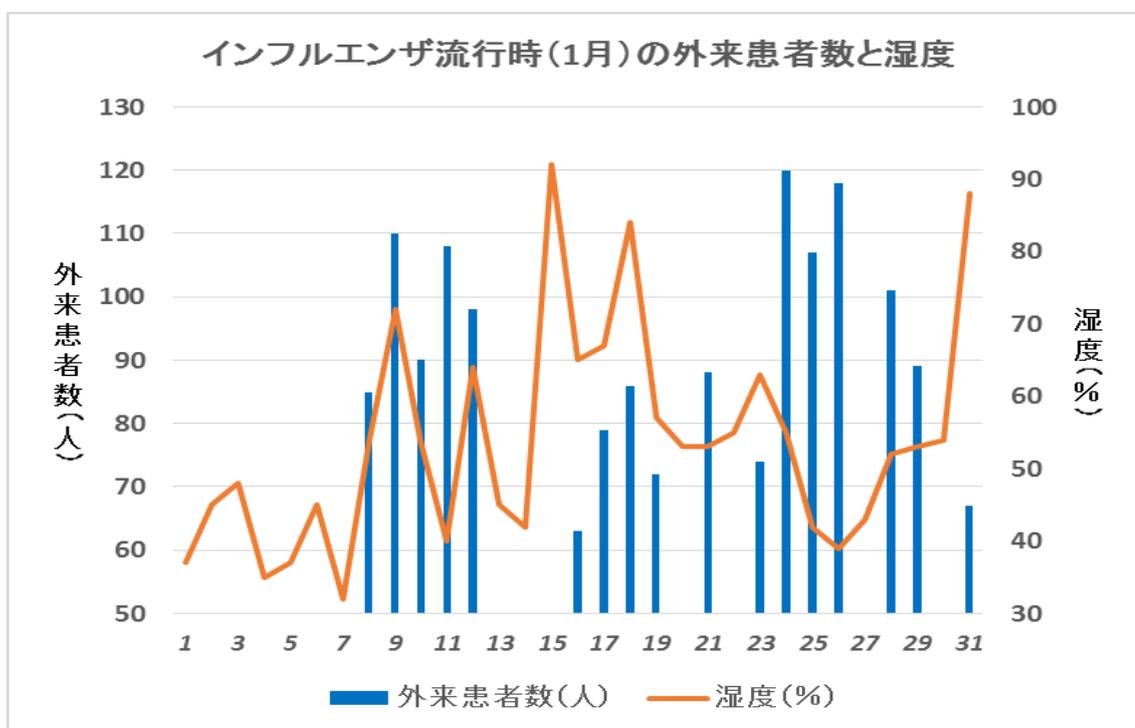
インフルエンザ外来患者数：湿度が低いほど増加

環境・健康

インフルエンザ流行時（1月）の外来患者数は湿度が上昇すると減少し、湿度が低下すると増加する傾向がみられるとの下記の報告（東京都大田区M医院、1990）があります。

冬の風邪の代表格である流行性感冒の病原であるインフルエンザウイルスは、湿度が低い（乾燥する）ほど活性力が増加します。

また、空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。特に乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50～60％）を保つことも効果的です。



湿度：日本気象協会 東京都気象月報平成2年1月、外来患者数：東京都大田区M医院資料

kes サポート

目的	課題	kesサポート
把握	事務所等の作業環境の状況	作業環境測定
	供給空気の清浄度	供給空気の清浄度測定
改善	事務所等の作業環境の改善	作業環境関連設備の改善、設置
教育	労働衛生意識の向上	労働衛生教育